

2017(平成29)年度活動方針・事業計画

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2017年度の目標とテーマ

1. 2017年度をどのような年にするか

ふれあいネットまつどは、1998年4月に設立、活動を開始しました。2017年は設立20年になる記念の年です。これまでの20年を振り返り、2020年を目途としたビジョンと計画を確立する節目の年にあたります。

- (1)ふれあいネットまつどが松戸市と地域社会で果たす役割と戦略を整理し、2017年を起点とする中期のビジョンをたて、スタートする年にします(ふれあいネットまつど2020年ビジョン)。
- (2)会設立20周年記念事業として、小金原地域支え合いセンター開設を会の総力で成功させる年にします。会と会員の総力を結集して成功させるために、小金原地域支え合いセンター開設にテーマを絞った臨時総会を開催します。

2. 2つのミッション(①困ったときはお互いのたすけあい活動②支え合いのある地域社会づくり活動)にもとづき、8つの重点課題に取り組みます。

- (1)ふれあいネットまつど2020年ビジョンの策定、スタート
- (2)小金原地域支え合いセンター開設
- (3)会設立20周年記念事業
- (4)支え合いのある地域社会づくり～新地域支援事業への参画
- (5)たすけあい活動～地域支援と社会貢献の2つの側面で見直し
- (6)収益事業～選択と集中で会財政の安定化に寄与
- (7)東日本大震災被災者支援活動を被災者の活動支援への転換
- (8)事務局の強化、スタッフ人材育成・処遇改善

活動方針(8つの柱)

第1の柱 — 会員組織を強め・会員活動を豊かにするために

1. 会員おさそい運動を春・秋2回実施し、ふれあい会員(利用会員)・正会員(協力会員)あわせて500人を目指します。
2. 会の活動へ多様な参画ができるよう、ふれあい会員・正会員に加えて、新しく「サポーター」(仮称)制を導入します。
3. 正会員(協力会員)が入会の初心を活かし、いきいきと活動に参加で来るように、新入会員研修会～実務研修会～フォローアップ研修会～活動別・テーマ別会員研修会について、体系化します。
4. たすけあい活動、サロン・居場所活動以外の社会貢献活動の創出を図ります。
5. 会員交流、つながりを紡ぐ楽しい活動について、実行委員会をつくり、取り組みます

No.	項目	実施月	備考
1	20周年記念会員交流旅行	4月	福島花見山一泊二日
2	会員定例会	年6回	謝金支払日開催
3	会員誕生会	毎月	第3月曜日開催
4	ふれあい敬老会	9月	小金市民センター
5	20周年記念会員祝賀会	2018年3月	森のホールレセプションホール

※毎年開催している、ふれあい夏祭り・さんま祭りは小金原地域支え合いセンター開設時期と重なり、新春のつどいは20周年記念祝賀会と重なるので中止します。

第2の柱 — たすけあい活動充実のために

1. 有償ボランティア活動(ふれあいサービス・松戸市元気応援サービス)を名実ともに会の中軸の活動として、量の拡大ではなく、質の充実を主眼に取り組みます。
2. 利用会員にとって利用しやすく、協力会員にとって、多くの会員が参加しやすく、会員のやりがい・社会貢献を実感できるよう仕組みと体制の整備をすすめます。
3. 松戸市訪問型元気応援サービスモデル事業の2018年度以降の一般化普及化に向けて、ふれあいネットまつどの取り組みの総括を行うとともに、松戸市に対しては、多くの団体、事業者が取り組みやすい仕組み作りを求めています。

第3の柱 — 制度サービスは選択と集中

1. 制度サービスは、高齢者・障がい者が地域社会で自分らしく人間らしく暮らし続けることを支援する包括的な支援の観点を大切に、居宅介護支援と障がい相談支援を一体的に運営する相談支援センターとして再編成します。

2. 居宅介護支援と障がい相談支援は、ケアマネージャー・計画相談支援員が制度と地域の力をマネジメントして高齢者と障がい者の暮らしを支える「地域生活支援マネージャー」の役割を担うことを目標に、質・量ともに拡大・強化します。小金原地域支え合いセンター開設に伴い、同センターの併設事業所として移転します。
3. 訪問介護サービスは、研修と訓練を計画的に行い、キャリア段位制度を活用して、訪問介護員のスキルアップを図り、高齢者の在宅生活を支える専門家集団として拡大・強化します。
4. 障がい福祉サービスは、移動支援サービスに力を集中します。

第4の柱 — 小金原地域支え合いセンター開設

小金原地域支え合いセンター開設を、会と会員の総力を結集して成功させるために、6月25日(日)に臨時総会を開催します。

《2017年度臨時総会》

- 日 時 2017年6月25日(日)午前10時～午後12時半
- 会 場 小金原市民センター2階ホール
- 議 題
 1. (報告)小金原地域支え合いセンターが目指すもの
 2. (報告)小金原地域支え合いセンターを成功させるために、
会員のみなさんの支援・協力をお願い
 3. (議案)小金原地域支え合いセンター開設・事業計画、開設・事業予算
- 招 集 招集状・議案書は、6月1日発行ニュースに同封して送付します。

第5の柱 — ふれあいの居場所みんなんち

1. 開設5年間の活動経験をもとに、小金地域の基幹型の居場所として、3つの役割を担う居場所として充実させます。

No	目指す方向(活動)	役割	活動
1	みんなの居心地の良い居場所	ホッとでき、くつろげる場所	ふれあい喫茶・食事会
2	人と人がつながる居場所	知り合い友達ができる場所	ふれあい喫茶・講座・イベント
3	誰もがその人らしさを活かし輝ける居場所	やりがい・生きがいを感じる場所	講座・イベント・ボランティアスタッフによる運営

2. 運営委員会を確立して、創意・工夫を大切に、ボランティアスタッフによる運営を行います。
3. 小金地域の自治会・町内会、住民団体との連携・協力を図ります。
4. 松戸市元気応援くらぶ(通いの場)モデル事業「みんなんち元気応援くらぶ」を週1回開催します。

第6の柱 - 支え合い助け合いを広げ、協働を強める活動

1. 困ったときはお互いさまのたすけあい活動と、支え合い助け合いのある社会づくり活動を広げる活動と協働を強める活動について、必要に応じて、まつど地域共生プロジェクト(Mi-Project)と連携して取り組みます。

(1) 支え合いと助け合いを広げる活動

- ① 地域包括ケアシステムの理解と協働を深めることを目的に、セミナー、研修会、勉強会を市民、住民団体 NPO、専門職などを対象として開催します。
- ② 支え合いと助け合いの担い手養成を目的に、地域活動担い手養成研修会、元気シニアを対象とした研修会、福祉有償運送運転者講習会等を開催します。
- ③ 小金地区の諸団体との協働を強めるために小金ぶらり市・ふれあい広場などに出展します。
- ④ 全国紙、地域紙等の紙媒体、web 媒体を積極的な活用し、支え合いと助け合いについての発信を行います。

(2) 住民団体、NPO、行政、企業との連携に取り組み、全国、千葉県、松戸市等各レベルでのネットワーク活動の役員等役割を担います。

第7の柱 - 東日本大震災支援活動

1. 2011年3月11日直後から、被災者支援活動に取り組んできました。発災から6年経過し、被災地と被災者の状況変化を踏まえ、①宮城県東松島②千葉県東葛地域の広域避難者支援活動の性格を「被災者支援」から「被災者の活動支援」に転換していきます。

2. 宮城県東松島市

- (1) ひびき仮設住宅から地域に戻った被災者が取り組む、コミュニティサロン活動を支援します。
- (2) 被災者とふれあいネットまつど会員・市民の交流活動を継続します。

3. 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト

- (1) 同プロジェクトの事務局団体を引き続き担います。
- (2) 同プロジェクトの活動が、広域避難者自身が行う帰還・定住・移住の選択と生活再建に向けた活動を支援へシフトすることに力を注ぎます。

第8の柱 - 組織運営・組織基盤づくり

1. ふれあいネットまつどが松戸市と地域社会で果たす役割と戦略を整理し、2017年を起点とする中期のビジョンをたて、スタートさせます。これを推進するためにプロジェクトチームをつくります。

2. 功績のある役員の見退後の処遇のために顧問制度の新設、会運営を機敏、効率的に行うために、拡大三役会を設けます。これらは、定款の変更でなく、細則の変更で行います。

3. ふれあいネットまつどを支援していただく層を広げるために、賛助会員制度を見直し、サポーター制の導入等、支援者の拡大を図ります。

4. 使命感が高く、スキル(福祉・介護の専門的スキル+地域マネージャー)の高い事務局組織が必要です。教育・人材育成計画を策定、人事・処遇制度の整備を行います。